令和８年度小平市立小平第六中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

１　調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

（１）教科に関する調査

身に付けておかなかければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

・知識・技能の問題における言葉の特徴や使い方に関する事項が東京都平均より6.6ポイント下回るが、情報の扱い方に関する事項は6.4ポイント上回っている。
・各領域の到達度は、東京都平均に比べて、話すこと聞くことの内容が1.8ポイント低いのに対し、書くことの内容は0.8ポイント、読むことの内容は1.1ポイント高い。

課題

・知識・技能の指導において、漢字の読み書きや言葉の特徴（ら抜き言葉等）に関する取組が不十分であり、文章表現に活用できていない。
・話すこと聞くことの領域における指導のうち、話合いの中で司会者の意図的な発言やまとめ方について生徒自身が体験を伴うような補充的指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

・授業の冒頭において、漢字の読み書きに関する補充的な指導に取り組む。知識の定着を見取るために、文法小テストを行ったり、学習者用端末を使用して復習をしたり、作文指導で語例を出して活用したりする場面を作る。
・話すこと・聞くことの領域において、特に話し合う活動での司会者の動きについて再度確認して実践する。相手の意見を引き出す問いかけ、意見を確認してまとめを行う進行方法など、円滑に話合いを進める工夫について、協働的に班で学ぶ学習活動を設定する。

【数学】

状況の分析

生徒質問紙からは、「数学が好き」（62.8 ポイント）「数学が得意」（55.7 ポイント）ともに都・全国を上回っている。問題別調査結果からは、基礎計算に対するは正答率 91.8 ポイント と非常に高い。一方で、論理的思考・証明については、正答率 45.6 ポイント（都 57.2 ポイント）と、低い結果となっている。

課題

生徒質問紙からは、「読んで理解はできる」（78.8ポイント）生徒が多い、一方で、「自分で説明する経験がある」（53.1ポイント）生徒が少ないという状況が読み取れる。解法を理解していても「自分の言葉で論理的に記述・表現する」学習が不足していることが課題として捉えられる。

学校で取り組む具体的な改善策

授業内や家庭学習において、「書くハードル」を下げ、完全な証明・説明を求めず、思考のプロセスや根拠となるメモを記述させる指導を導入する。また、解説を聞いて「分かった」で終わらせず、隣の生徒に解き方の筋道を説明し合うペアワークや、途中経過を短文でメモさせること、授業の内容の振り返りを記述させることなどの、言語化活動を日常的に取り入れる。

【英語】　　状況の分析　　課題

・平均正答数集計値は全国より 0.4 ポイント上回ってるが、都よりは 0.2 ポイント低い。
・技能別においては、「聞くこと」「読むこと・書くこと」は全国よりやや上回っている。「話すこと」は全国と同じだが、都より 0.1 ポイント低い。

・内容を正確に読み取る、聞き取る力が全体的に不足している。問題の概要はつかめていても、適切な構文で表現できなかったり、理由が書けなかったりする生徒が少なくない。
・自分自身以外に関する内容に正確に答えられない。

学校で取り組む具体的な改善策

全体的には「聞く」「読む」「書く」基礎ができている生徒は多いが、発展的な内容になると正確性に欠けてくるので、あいまいな知識・理解を正確な解答につなげる活動を工夫していく。「話すこと」においては、ペアワークを行っているが、テストのような形になると委縮して自信をもってこたえられなくなるので、様々なトレーニングを積み重ねて、自信をもたせていきたい。

【質問紙】　　状況の分析　　課題

・情報収集と整理、文章やプレゼンテーション作成など ICT 機器の活用に対するポイントが高く、授業改善の柱として利用促進に取り組んだ成果が顕著に出ている。
・全国平均と比べて、総合的な学習の時間や道徳の授業の活動に熱心に取り組む生徒が多い。
・全国平均と比べて、学習内容を次の学習につなげることができている生徒が多い。

・「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足」という質問事項に対して「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」生徒のポイントは東京都よりもやや高いが、「当てはまる」になると低くなるので、日常生活の中で自信をもって伝えられない側面があると言える。
・「学級で人と違う意見を言っても否定されないと思う」という質問事項に対して「当てはまる」生徒のポイントがやや低く、発言に消極的な姿勢が数字に表れている。

学校で取り組む具体的な改善策

自己肯定感は全国平均と比べて低くはないが、学級集団における話し合い活動や意見交換では引いてしまい、自分の意見を伝えることに消極的なので、自信をもたせる声かけ（励まし・褒め言葉）を増やし、日々の生活の中で達成感を味わえるように活動内容を工夫していく。正しく楽しい、生徒の自主的活動の企画運営をより多くできるよう、意図的に仕掛けていく。